

Que Será, Será

VOL.1
1995
EARLY
SUMMER



春日十志王
『バラ』

創刊にあたって

なごやメンタルクリニックは開院して三年目を迎えました。わたしは次のような心構えで日々の診療に従事しています。それは、身体の苦しみであれ心の悩みであれまず患者さんの痛みをとる、診療の情報をも十分に患者さんや家族に提供する、その時点で最善 (state of the art) の科学的な治療をする、ということです。

良い診療には患者さんと十分なコミュニケーションをとることが大切だと思います。わたしは一人の患者さんの診察時間を十分にとるように心がけていますが、物理的な制約があります。患者さんとクリニックのコミュニケーションの向上をはかるため、この度の季刊誌「ケセラセラ」を発売することにしました。「ケセラセラ」には、医療を提供するものとしてどんなことを考えているのか、また、療養上必要なことがら、健康に関する記事などを掲載する予定にしています。もちろん患者さんからの寄稿も歓迎いたします。



貝谷久宣 (かいや ひさのぶ)
(なごやメンタルクリニック院長)